2023 年 1 月 26 日

各　位

会 社 名　スズキ株式会社
代表者名　代表取締役社長　鈴木　俊宏
（コード番号7269　東証プライム市場）
問合せ先　渉外広報本部長
岡島　有孝
電話番号　（053）440-2030

2030 年度に向けた成長戦略発表のお知らせ

スズキ株式会社は、2030 年度に向けた成長戦略を発表いたしましたので、お知らせいたします。

発表内容の詳細につきましては添付資料をご参照ください。

【添付資料】
リリース
説明資料

以　上

SUZUKI

２０２３年１月２６日

スズキ、2030 年度に向けた成長戦略を発表

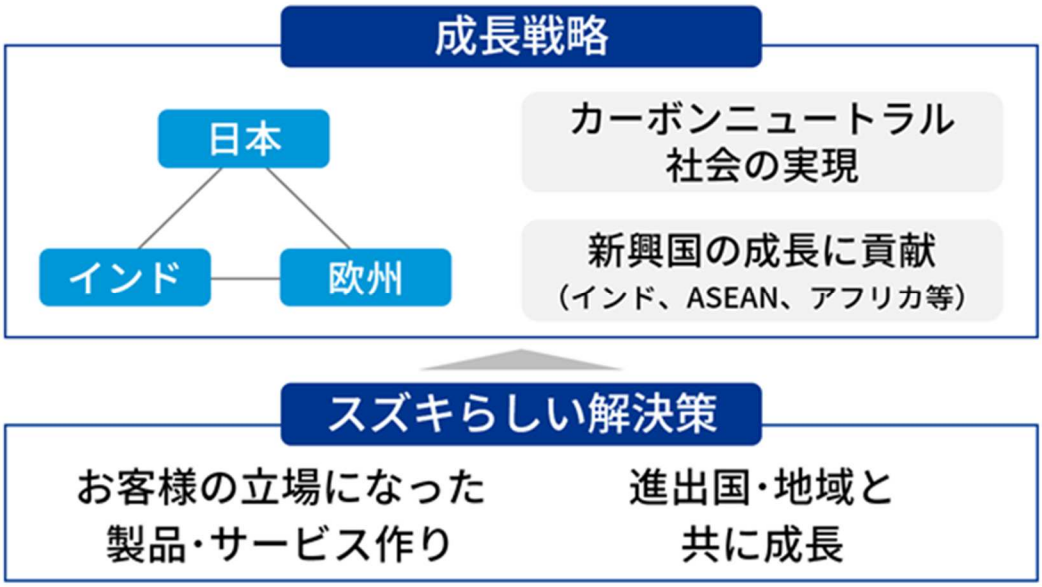
スズキ株式会社は、2030 年度に向けた成長戦略を発表しました。

スズキは、お客様の立場になった「価値ある製品」づくりをモットーに、モノづくりの根幹である「小・少・軽・短・美」、柔軟さ・素早さ・チャレンジ精神を忘れない「中小企業型経営」、机上の空論を排した「現場・現物・現実」の三現主義で行動し、スズキらしい 2030 年度に向けた成長戦略を進めてまいります。

成長戦略の骨子

スズキは 2030 年度に向け、主要事業地域である日本・インド・欧州を核にして、カーボンニュートラル社会の実現とインド、ASEAN、アフリカなどの新興国の経済成長に貢献してまいります。

お客様の立場になった製品・サービス作りと進出国・地域と共に成長するというスズキらしい解決策に取り組んでまいります。



スズキ株式会社
URL https://www.suzuki.co.jp/
本　　社：〒432-8611 静岡県浜松市南区高塚町300
広　報　部　TEL (053) 440-2030　FAX (053) 440-2631
東京支店：〒105-0021 東京都港区東新橋2-2-8 スズキビル東新橋2階
東京広報グループ　TEL (03) 5425-2158　FAX (03) 3431-3558
お客様のお問い合わせ先は
「お客様相談室」にお願いいたします。
〈フリーダイヤル〉 0120-402-253

2030 年度に向けた主な取り組み

＜カーボンニュートラル＞

スズキは、各国政府が掲げる達成目標時期に基づき、日本・欧州で 2050 年、インドでは 2070 年のカーボンニュートラルの達成を目指してまいります。

これからもお客様の選択肢を広げ、地域のニーズに合った製品・サービスをお届けするとの考え方を軸に、地域毎のカーボンニュートラル目標の達成に取り組んでまいります。

～　製品分野　～

〇四輪車

日本では、2023 年度の軽商用バッテリーEV の投入を皮切りに、小型 SUV・軽乗用などの投入を予定しており、2030 年度までに 6 モデルを展開いたします。また、軽自動車や小型車向けに新型ハイブリッドを開発し、バッテリーEV と併せることでお客様に多くの選択肢を提供してまいります。

欧州では、2024 年度よりバッテリーEV を投入し、SUV・B セグメントなどに広げていき、2030 年度までに 5 モデルを展開いたします。欧州各国の環境規制やお客様ニーズに合わせて柔軟に対応してまいります。

インドでは、「Auto Expo 2023」で発表したバッテリーEV を 2024 年度に投入し、2030 年度までに 6 モデルを展開いたします。バッテリーEV だけではなく、スズキはあらゆる製品・サービスを提供すべく、ハイブリッド車・CNG・バイオガス・エタノール配合の燃料などを使用したカーボンニュートラルな内燃機関車も継続的に投入してまいります。

（バッテリーEV 投入計画）

地域	投入時期	2030 年度までの計画	
		モデル数	バッテリーEV 比率
日本	2023 年度	6	20%
欧州	2024 年度	5	80%
インド	2024 年度	6	15%

〇二輪車

通勤・通学や買物など生活の足として利用される小型・中型二輪車は、2024 年度にバッテリーEV を投入いたします。2030 年度までに 8 モデルを展開し、バッテリーEV 比率 25%を計画しております。趣味性の強い大型二輪車については、カーボンニュートラル燃料での対応を検討しております。

〇船外機

湖沼や河川で多く使われる小型船外機は、2024 年度にバッテリーEV を投入いたします。2030 年度までに 5 モデルを展開し、バッテリーEV 比率 5%を計画しております。海洋で使われる大型船外機については、カーボンニュートラル燃料での対応を検討しております。

〇電動モビリティ

スズキは、免許返納者の新たな移動手段であるセニアカーやその進化形である KUPO、株式会社エムスクエア・ラボと共同開発しているマルチワーク可能なロボット台車のモバイルムーバーなど、様々な電動モビリティを提案してまいりました。お客様ニーズの多様化や環境の変化による新たな市場に向けて、生活を支える小さなモビリティに挑戦してまいります。

＊Mobile Mover（モバイルムーバー）は株式会社エムスクエア・ラボの登録商標です。

～　製造分野　～

日本国内の工場は、2035 年度のカーボンニュートラル達成に挑戦してまいります。

〇スマートファクトリー創造

世界の生活の足を守り抜く企業であり続けるために、2030 年度のものづくりのあるべき姿を描き、スズキ・スマートファクトリー創造を進めております。スズキのモノづくりの根幹である「小・少・軽・短・美」とデジタル化の推進を組み合わせることで、データ・モノ・エネルギーの流れを最適・最小化、簡素化し、徹底的にムダをなくして、カーボンニュートラルへ繋げてまいります。

〇国内工場での取り組み

国内最大の生産拠点である湖西工場では、塗装設備の刷新と塗装技術の向上により、使用するエネルギーを効率化／最適化し、塗装工場の CO2 排出量 30%削減に取り組んでおります。さらに、太陽光発電等の再生可能エネルギーからグリーン水素を製造し、その水素をエネルギー源として荷役運搬車両を走らせる実証実験を 2022 年末に開始いたしました。

二輪車の生産拠点である浜松工場は 2030 年度のカーボンニュートラル達成を宣言しておりましたが、エネルギー使用量の削減や太陽光発電設備の増設など再生可能エネルギーへの転換により、カーボンニュートラル達成を 2027 年度に前倒しいたします。浜松工場のノウハウを他工場にも展開することで、2035 年度の国内全工場のカーボンニュートラル化に取り組んでまいります。

～　インドのバイオガス事業　～

2030 年度に向けて、インド市場は今後も成長を見込んでおりますが、製品からの CO2 排出量を削減しても、総排出量の増加が避けられない見通しです。これからもインドと共に成長していくために、販売台数の増加と CO2 総排出量の削減の両立に挑戦してまいります。

そのためのスズキ独自の取り組みとして、インド農村部に多い酪農廃棄物である牛糞を原料とするバイオガス燃料の製造・供給事業へ挑戦してまいります。このバイオガス燃料は、インド CNG 車市場シェアの約 70%を占めるスズキの CNG 車にそのまま使用することが出来ます。

スズキは、インド政府関係機関の全国酪農開発機構、アジア最大規模の乳業メーカーである Banas Dairy 社とバイオガス実証事業を実施することで覚書を締結しました。また、日本で牛糞を原料としたバイオガス発電を手掛ける合同会社富士山朝霧 Biomass に出資し、知見の蓄積を始めております。

インドにおけるバイオガス事業は、カーボンニュートラルへの貢献だけではなく、経済成長を促し、インド社会に貢献するものと考えております。また、将来的にアフリカや ASEAN、日本の酪農地域など他地域に展開することも視野に入れております。

インド自動車産業のリーディング企業であるスズキが、新興国のカーボンニュートラルと経済成長に貢献することは、先進国と新興国が協調して CO2 排出量を削減するパリ協定の趣旨にも合致するものであり、全世界のステークホルダーに対して貢献出来ると信じて取り組んでまいります。

＜研究開発体制・外部連携＞

スズキ本社、横浜研究所、スズキ R&D センターインディア、マルチスズキが連携し、将来技術、先行技術、量産技術の領域分担をしながら、効率的に開発してまいります。また、スズキがインドに徹底的に根付くため、スズキイノベーションセンターが探索活動を行っております。さらに、スタートアップ企業、スズキ協力協同組合、日本・インドの大学との共同研究による産学官連携などグループ外とも連携しながらモノづくりの力を高めてまいります。

トヨタ自動車株式会社とは、競争者であり続けながら協力関係を深化させ、持続的成長と自動車産業を取り巻く様々な課題克服を目指してまいります。自動運転や車載用電池等を始めとした先進技術開発、将来有望な新興国でのビジネス拡大、インドでのカーボンニュートラルに向けた取り組み、また環境に配慮した循環型社会の形成に向けて協業してまいります。

2022 年に設立したコーポレートベンチャーキャピタルファンドの Suzuki Global Ventures では、企業及び既存の事業の枠を超えスタートアップとの共創活動を加速しています。日本のみならず海外においても、お客様や社会の課題解決に資する領域に投資をし、スタートアップとともに成長するエコシステムの発展に貢献してまいります。

＜研究開発・設備投資＞

2030 年度までに研究開発に 2 兆円、設備投資に 2.5 兆円、あわせて 4.5 兆円規模を投資してまいります。4.5 兆円のうち、電動化関連投資に 2 兆円、そのうち 5,000 億円を電池関連に投資してまいります。

研究開発への投資は、電動化、バイオガスなどのカーボンニュートラル領域や自動運転などに 2 兆円を計画しております。

設備投資は、バッテリーEV 工場の建設や再生可能エネルギー設備などに 2.5 兆円を計画しております。

＜連結売上高目標＞

2023 年 3 月期の予想連結売上高は 4.5 兆円であり、中期経営計画で掲げた 2026 年 3 月期の売上高目標の 4.8 兆円を超えるペースで成長を続けております。これからも、新興国の成長に貢献することで、スズキもともに成長していきたいと考えております。2030 年度には、2022 年 3 月期の売上高 3.5 兆円から、倍増となる 7 兆円規模を目指して挑戦を続けてまいります。

スズキは、100 年に一度といわれる大変革期に、カーボンニュートラルと新興国の成長貢献の両立に挑戦していく中でも、スズキの商品には、「ワクワク」、「元気よく」、「個性的」といった感覚が大切だと考えております。これまで世に送り出してきた四輪車、二輪車、船外機、セニアカーは、実用的でありながらエモーショナルな面を持ち、お客様からの熱い支持をいただいてまいりました。

これからも、世界中のお客様の日々の移動を支え、環境にも優しく、いつも身近にあって頼れる生活のパートナーとなる製品・サービスをお届けしていくため、全世界のスズキ社員が一丸となって挑戦を続けてまいります。

以上

2030年度に向けた成長戦略説明会

社是

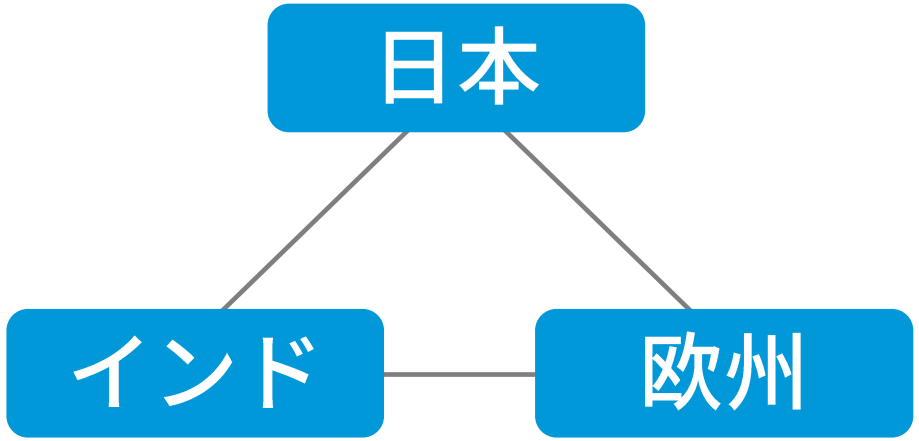
一、消費者の立場になって
価値ある製品を作ろう

二、協力一致清新な会社を
建設しよう

三、自己の向上につとめ常に
意欲的に前進しよう

© Suzuki Motor Corporation, 2023. All rights reserved.

成長戦略



カーボンニュートラル
社会の実現

新興国の成長に貢献
（インド、ASEAN、アフリカ等）

スズキらしい解決策

お客様の立場になった
製品・サービス作り

進出国・地域と
共に成長

© Suzuki Motor Corporation, 2023. All rights reserved.

1. スズキの軌跡

2. カーボンニュートラル

3. リソース

4. 成長目標

© Suzuki Motor Corporation, 2023. All rights reserved.

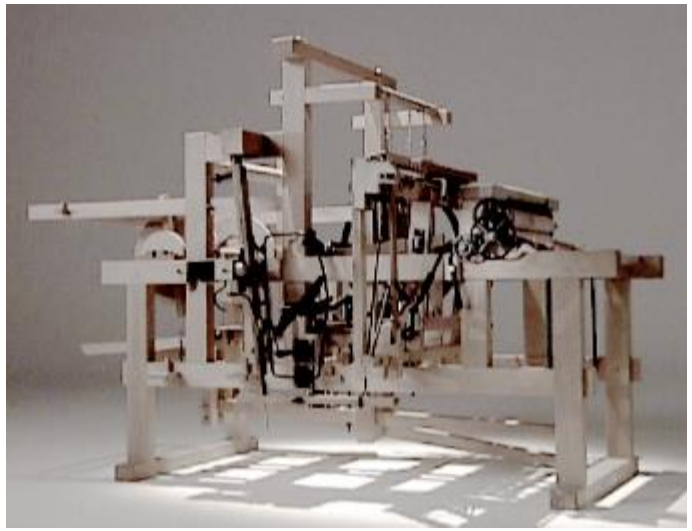
１．スズキの軌跡

© Suzuki Motor Corporation, 2023. All rights reserved.

母の織物仕事を楽にしてあげたい

創業者　鈴木道雄

母に贈った第１号機

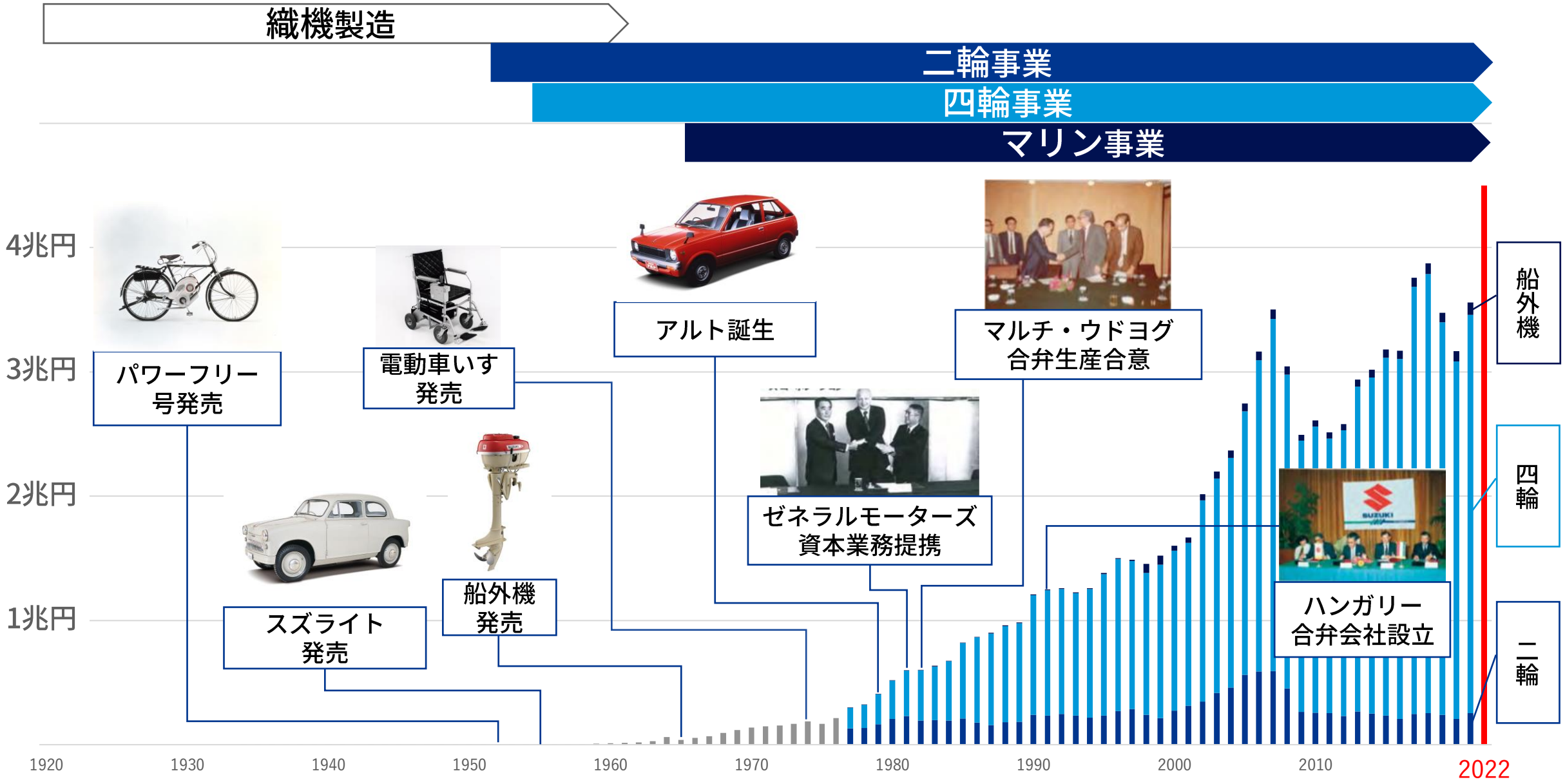


1910年代の織機（復元）

鈴木式織機製作所

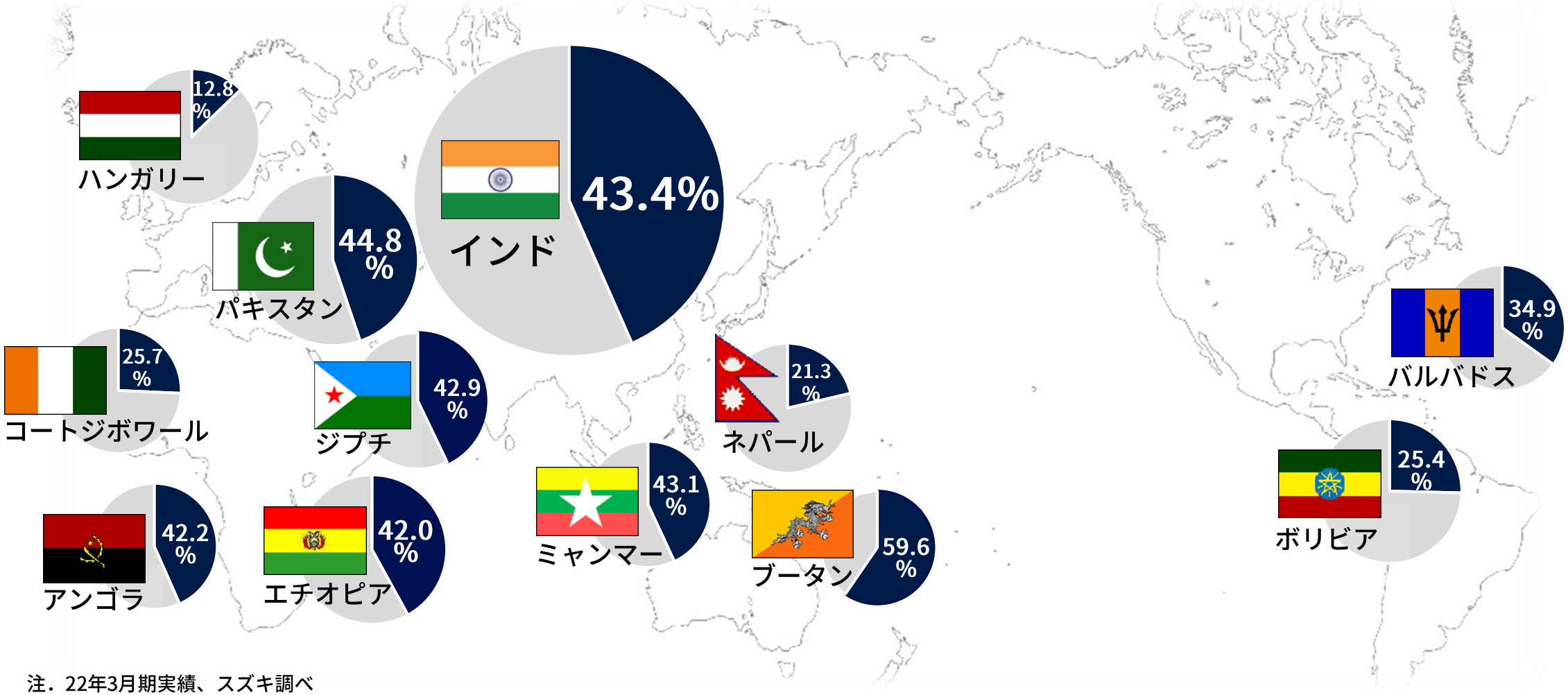
© Suzuki Motor Corporation, 2023. All rights reserved.

スズキの軌跡｜事業の拡大（売上高推移）



© Suzuki Motor Corporation, 2023. All rights reserved.

世界12か国で四輪シェア１位



注．22年3月期実績、スズキ調べ
・インドは乗用車シェア　・パキスタンは輸入車含む　・コートジボワールは21年暦年

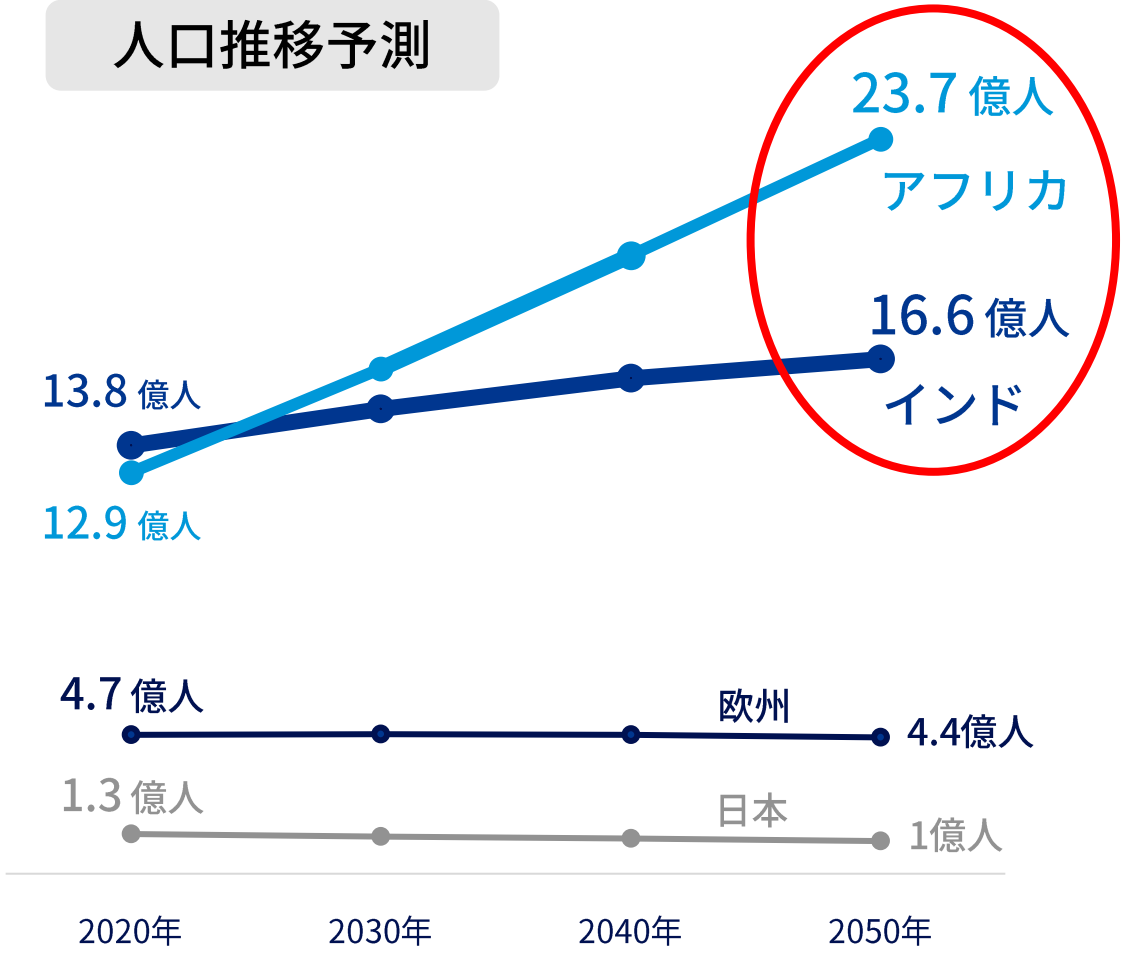
© Suzuki Motor Corporation, 2023. All rights reserved.

お客様の生活や仕事を支える製品･サービスの提供

© Suzuki Motor Corporation, 2023. All rights reserved.

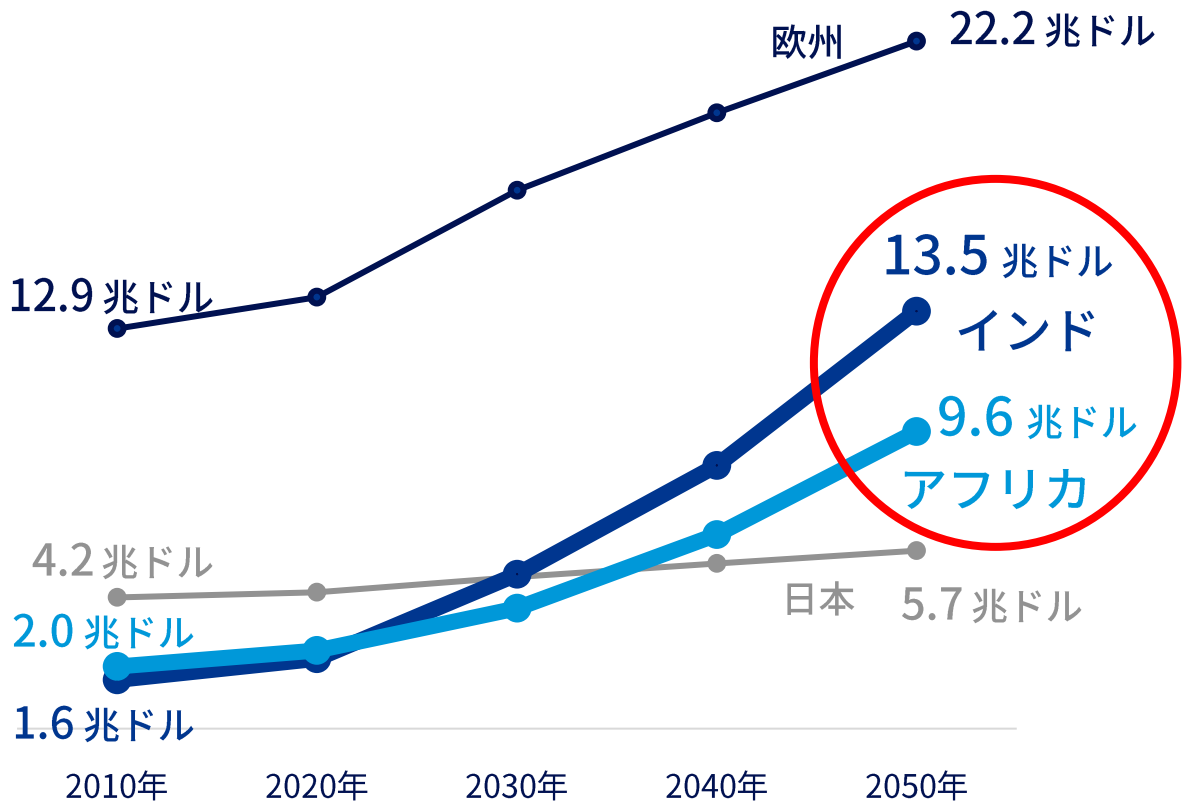
インド・アフリカは、人口・名目GDPともに増加見込み

人口推移予測



出展：IEEJ

名目GDP予測



出展：IEEJ

© Suzuki Motor Corporation, 2023. All rights reserved.

スズキの軌跡｜主要事業拠点別の方向性

日本・欧州

技術･製品を作り出し、磨く

インド

広く･深く･徹底的に根付き
社会とお客様の期待に応える

アフリカ

将来有望な市場

© Suzuki Motor Corporation, 2023. All rights reserved.

２．カーボンニュートラル

© Suzuki Motor Corporation, 2023. All rights reserved.

カーボンニュートラル達成目標

欧州 2050年

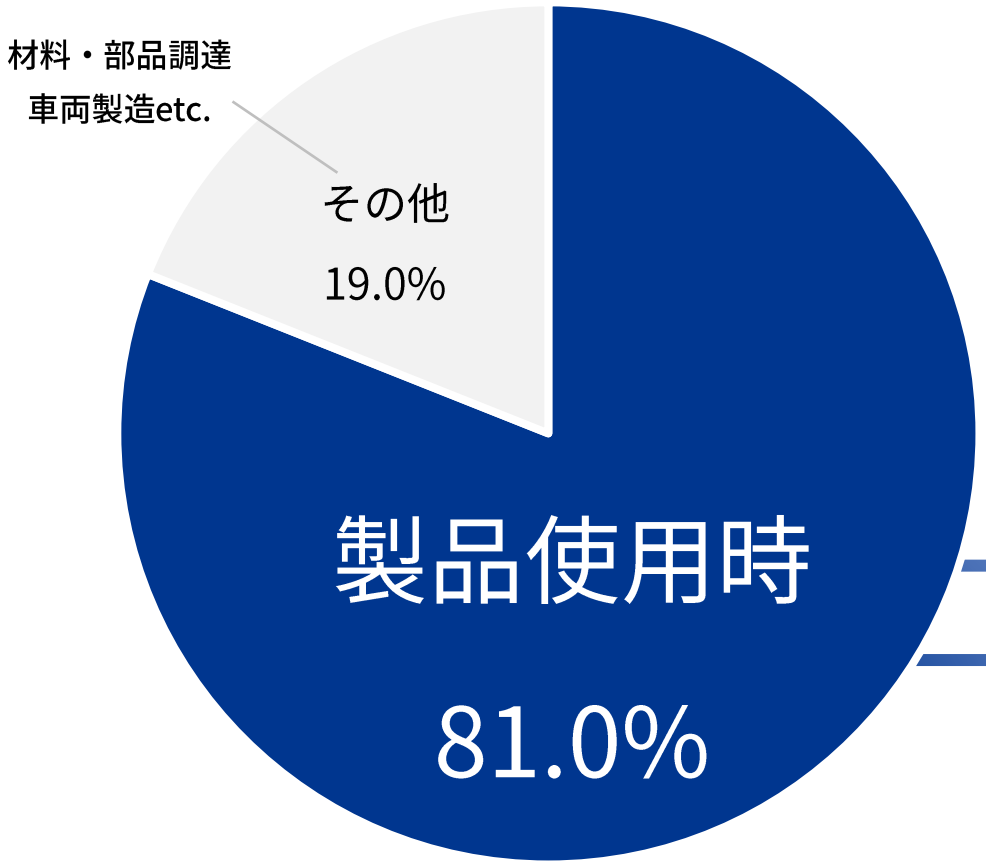
日本

インド 2070年

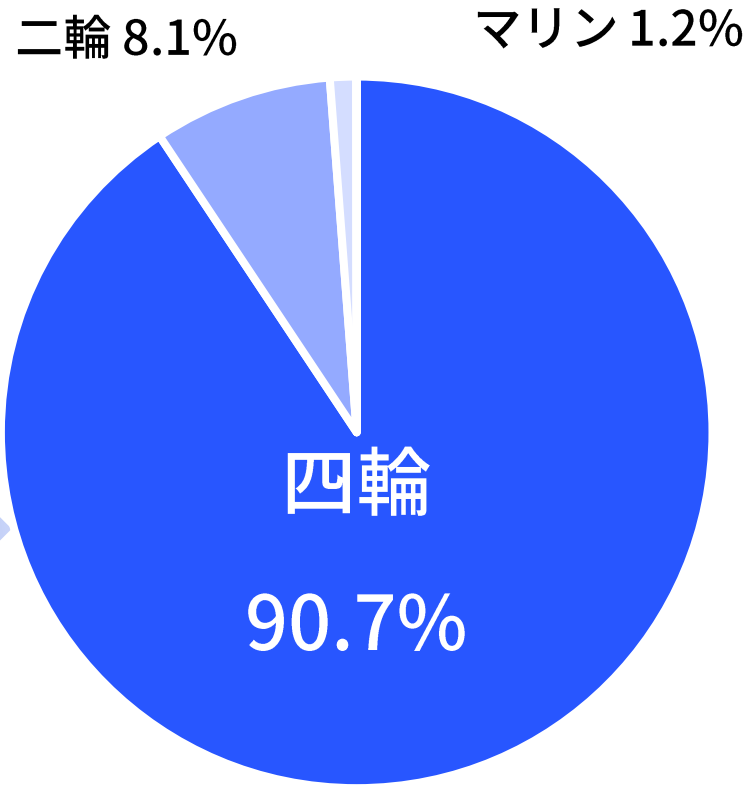
© Suzuki Motor Corporation, 2023. All rights reserved.

カーボンニュートラル｜製品ライフサイクルを含む事業活動全体のCO_2排出量 （2020年度実績）

製品ライフサイクルを含む事業活動全体のCO_2排出量



製品使用時におけるCO_2排出量



© Suzuki Motor Corporation, 2023. All rights reserved.

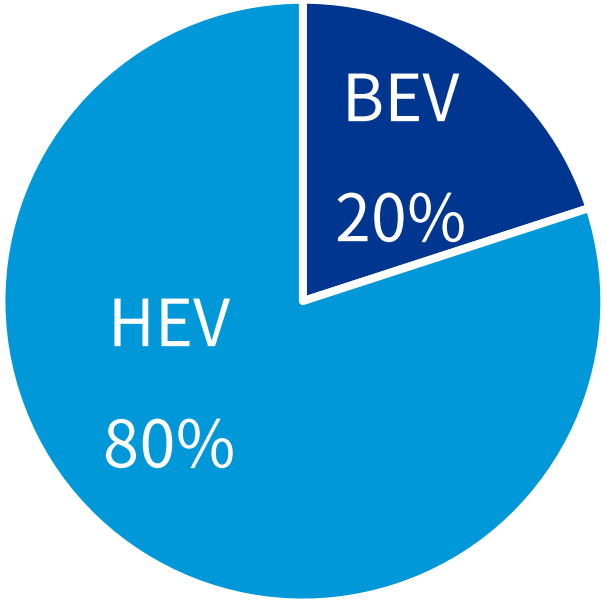
2030年度までの製品計画（日本）

2023年度にバッテリーEV初投入

バッテリーEVラインナップ

6 モデルを展開

パワートレイン比率



（乗用車のみ）

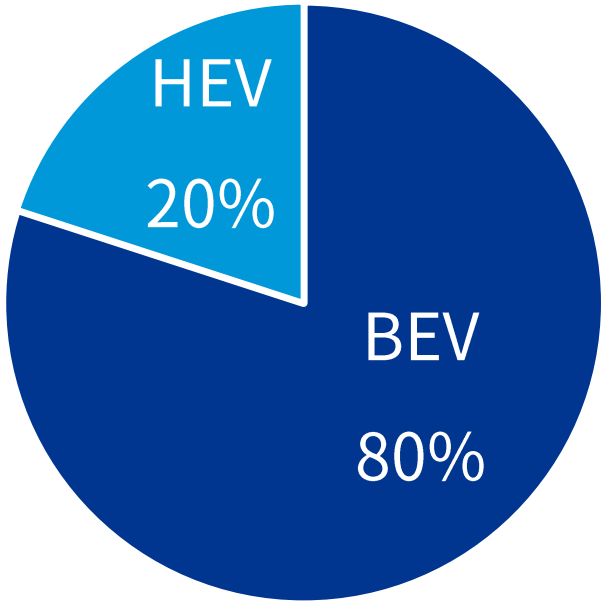
© Suzuki Motor Corporation, 2023. All rights reserved.

2030年度までの製品計画（欧州）

2024年度にバッテリーEV初投入

バッテリーEVラインナップ

パワートレイン比率



© Suzuki Motor Corporation, 2023. All rights reserved.

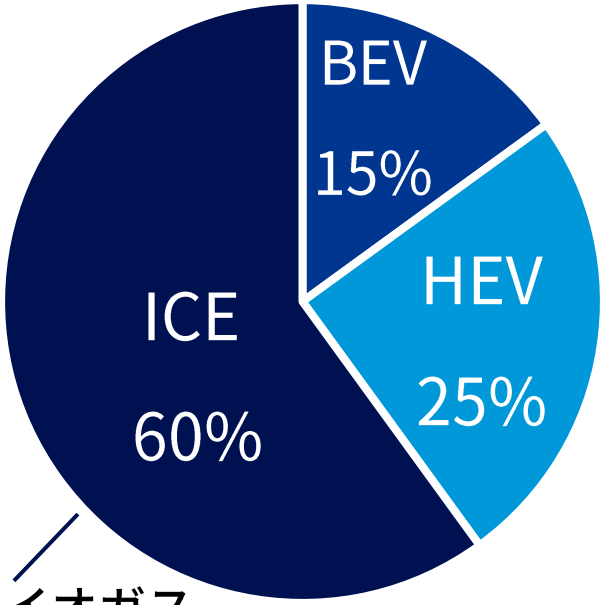
2030年度までの製品計画（インド）

2024年度にバッテリーEV初投入

バッテリーEVラインナップ

6 モデルを展開

パワートレイン比率



CNG、バイオガス、
エタノール配合燃料など

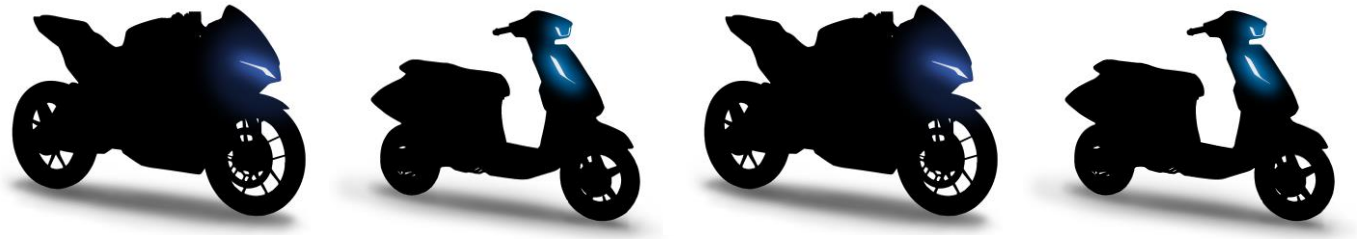
© Suzuki Motor Corporation, 2023. All rights reserved.

2030年度までの製品計画（全世界）

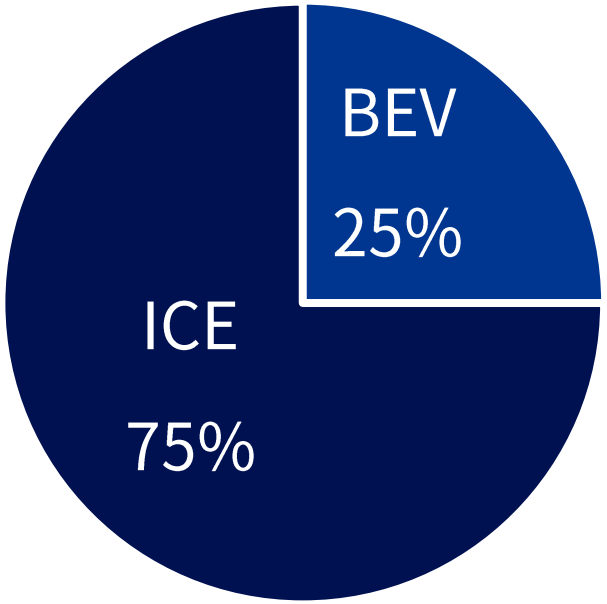
2024年度にバッテリーEV初投入

バッテリーEVラインナップ

8 モデルを展開



パワートレイン比率



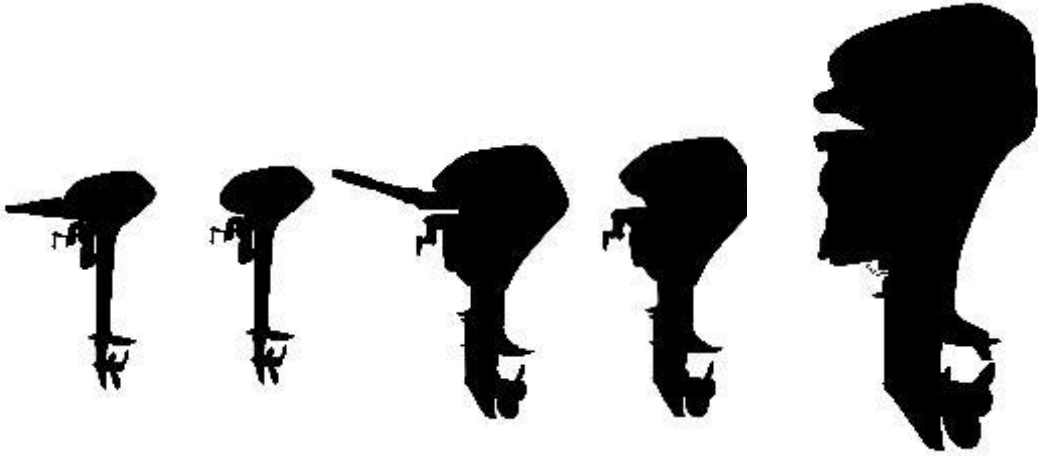
© Suzuki Motor Corporation, 2023. All rights reserved.

2030年度までの製品計画（全世界）

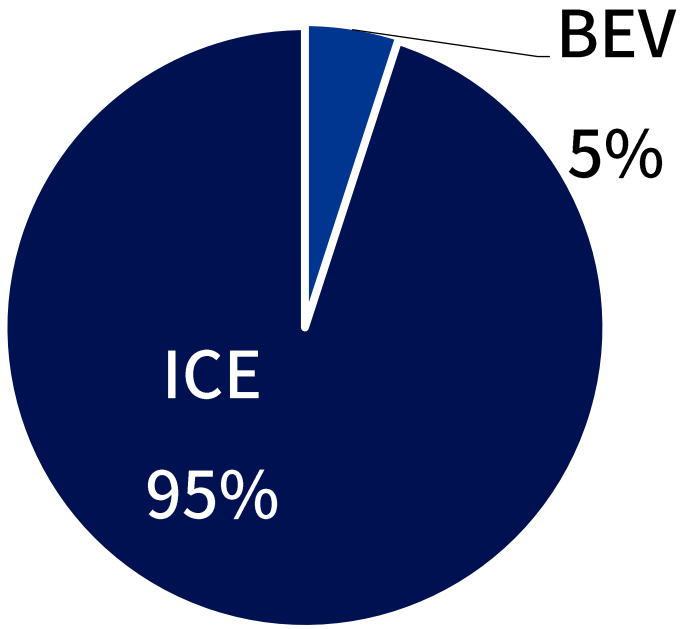
2024年度にバッテリーEV初投入

バッテリーEVラインナップ

5 モデルを展開



パワートレイン比率



© Suzuki Motor Corporation, 2023. All rights reserved.

クリーンオーシャンプロジェクト

世界清掃活動

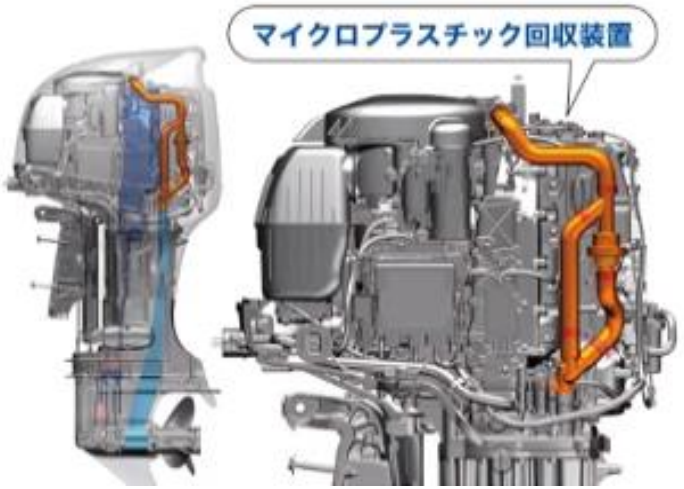
2010年からの**累計参加者12,881名**

梱包脱プラ活動

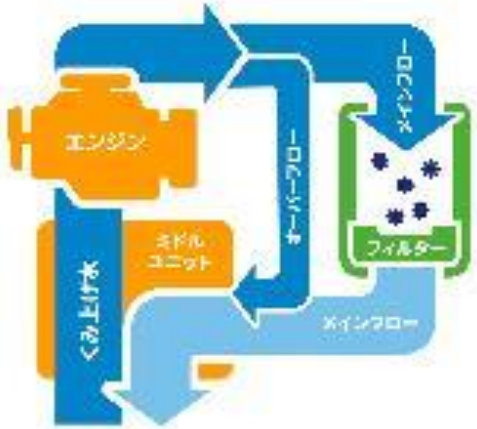
2020年からの**累計削減量23トン**

マイクロプラスチック回収装置

2022年7月より**5機種に標準装備**



マイクロプラスチック
回収装置模式図



Plastics Smart

© Suzuki Motor Corporation, 2023. All rights reserved.

2023年度～2030年度の資源投入

電動化関連投資（研究開発・設備投資）　**２兆円**

うち、電池関連投資　**0.5兆円**

（内閣広報室提供）

TDSG社　2021年3月よりセル生産開始

インドでの電気自動車および車載用電池生産に関する覚書をグジャラート州と締結

© Suzuki Motor Corporation, 2023. All rights reserved.

カーボンニュートラル｜電動モビリティ　製品展開

社会課題の
解決

お客様ニーズ
新たな市場

© Suzuki Motor Corporation, 2023. All rights reserved.

国内工場のカーボンニュートラル

2035年度

© Suzuki Motor Corporation, 2023. All rights reserved.

「CO_2排出量の削減」＋「お客様に価値ある製品・サービス提供」

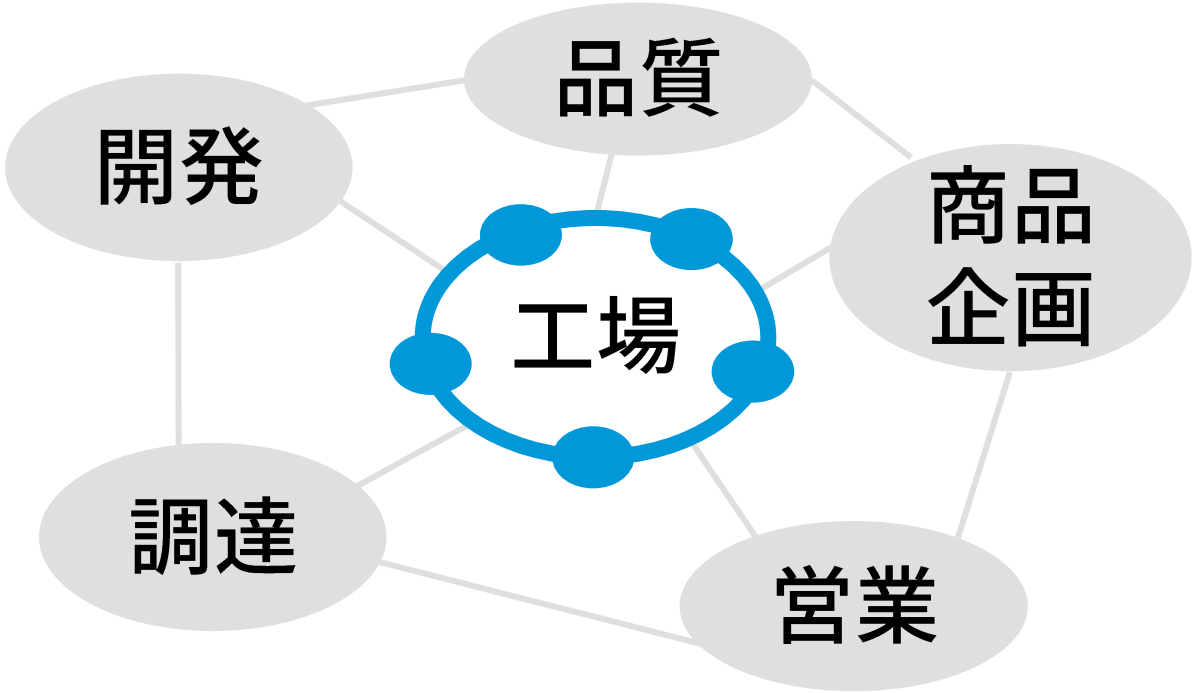
「小・少・軽・短・美」

デジタル化の推進

ムダの排除

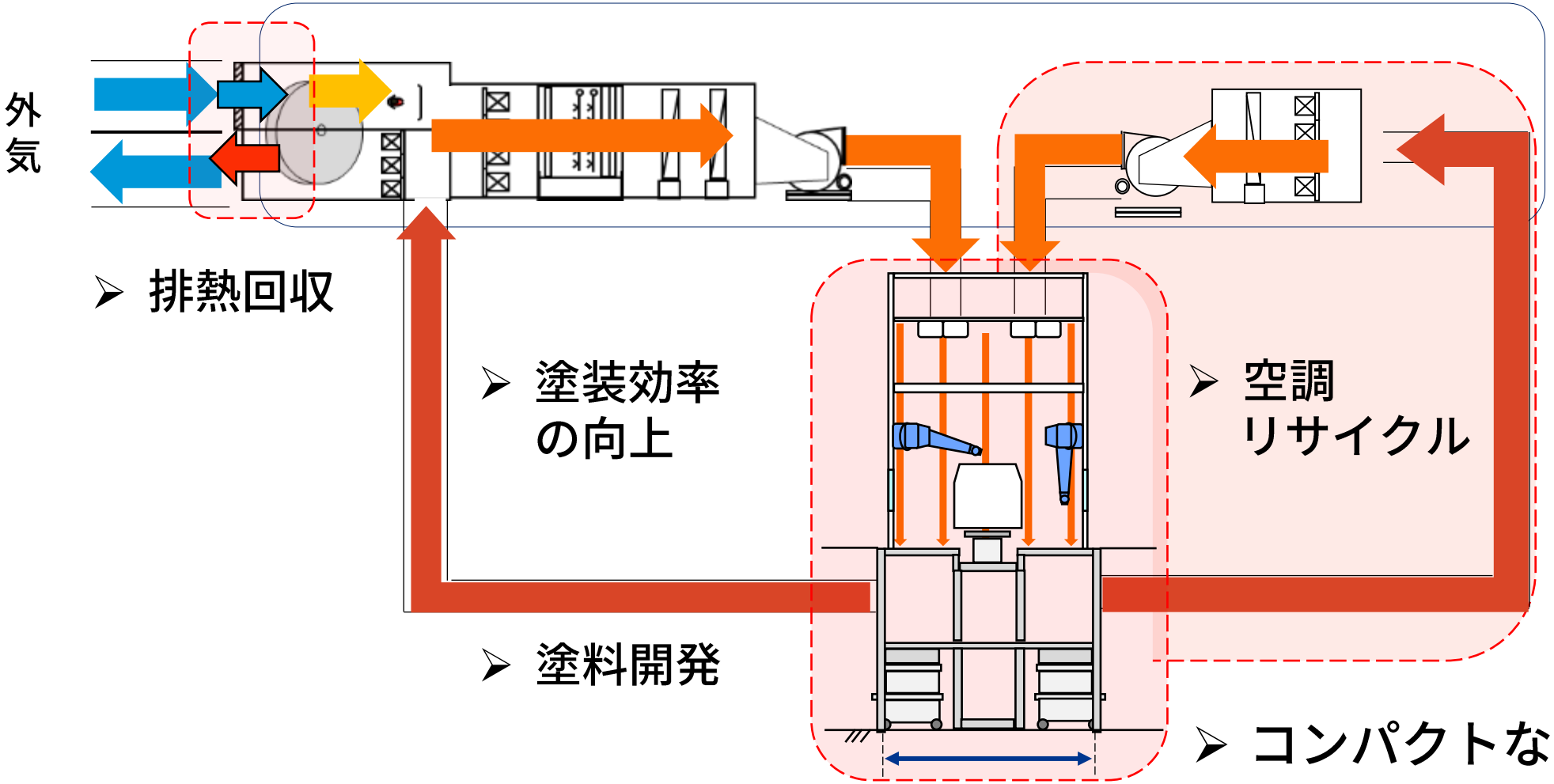
製品価値向上

部門間のデータ連携強化



© Suzuki Motor Corporation, 2023. All rights reserved.

塗装工場CO_2排出量 2016年度から2025年度で30%削減



© Suzuki Motor Corporation, 2023. All rights reserved.

工場のカーボンニュートラル化を推進

グリーン電力 → 水素製造 → 水素活用

風力発電

太陽光発電

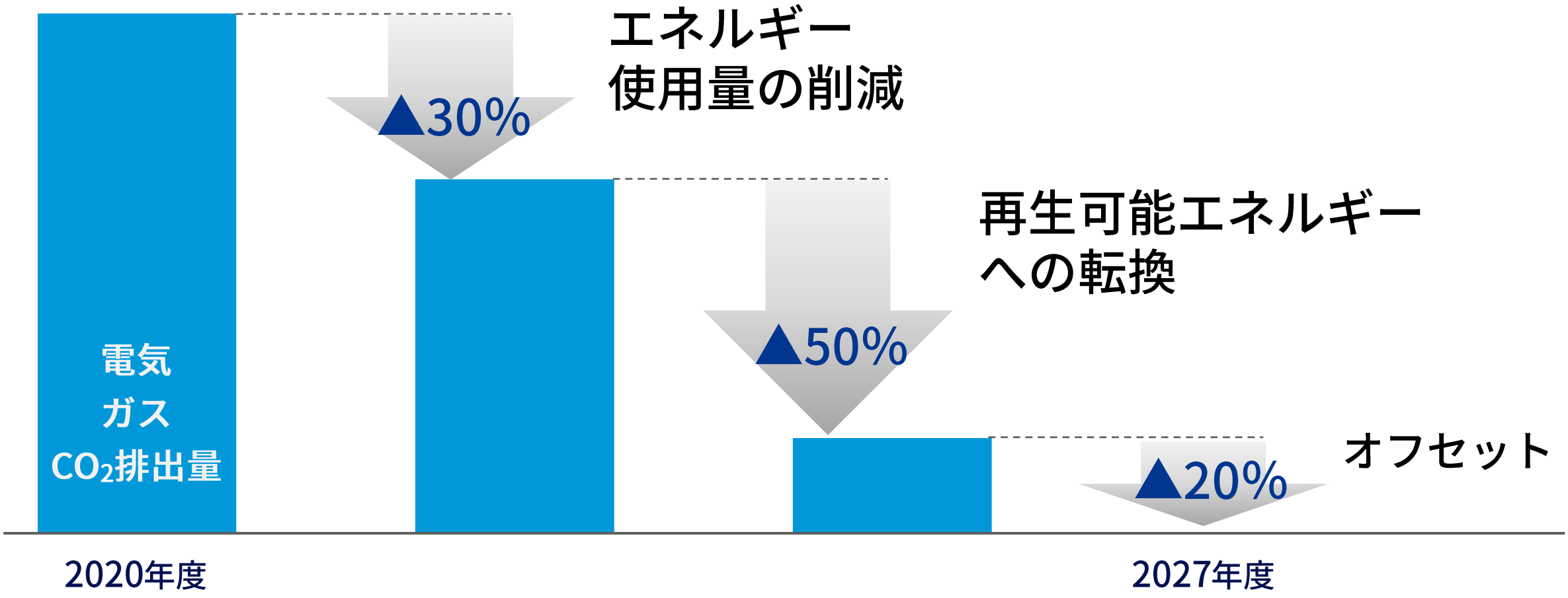
水素発生装置

燃料電池：荷役運搬車等

水素バーナー：塗装工程等

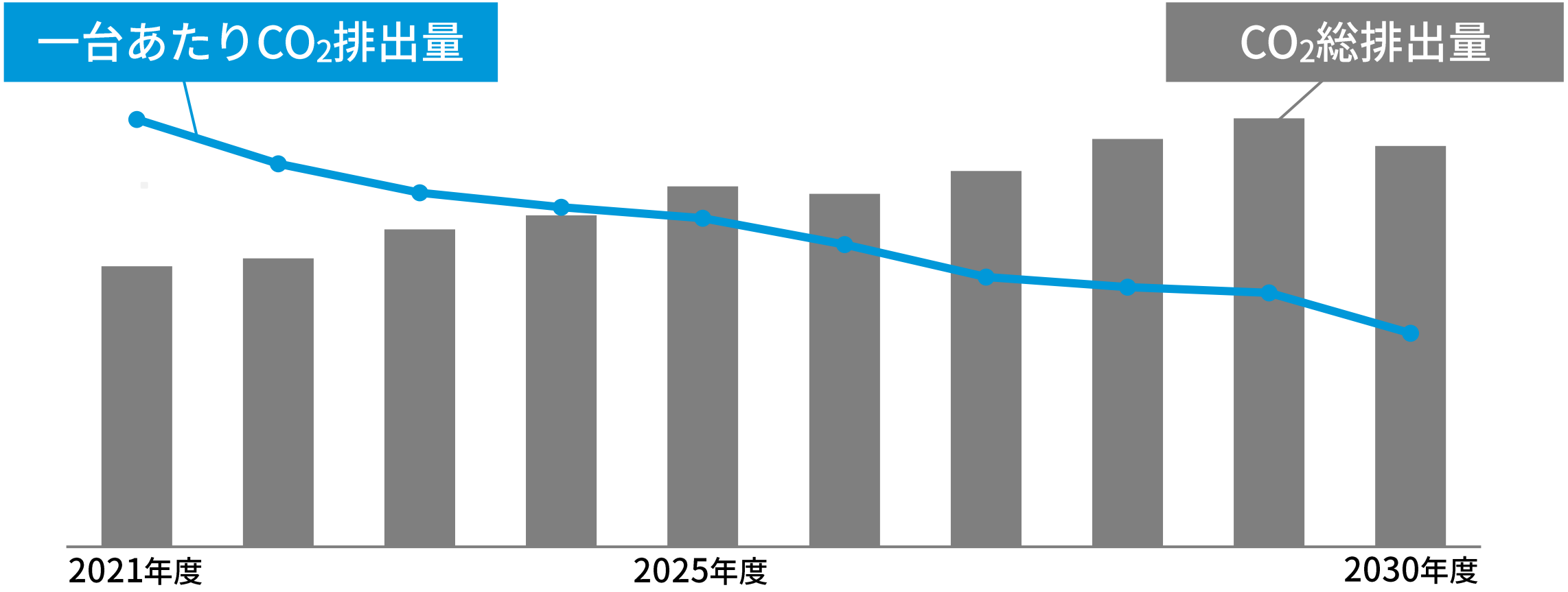
© Suzuki Motor Corporation, 2023. All rights reserved.

浜松工場のカーボンニュートラル 2030年 → 2027年度



© Suzuki Motor Corporation, 2023. All rights reserved.

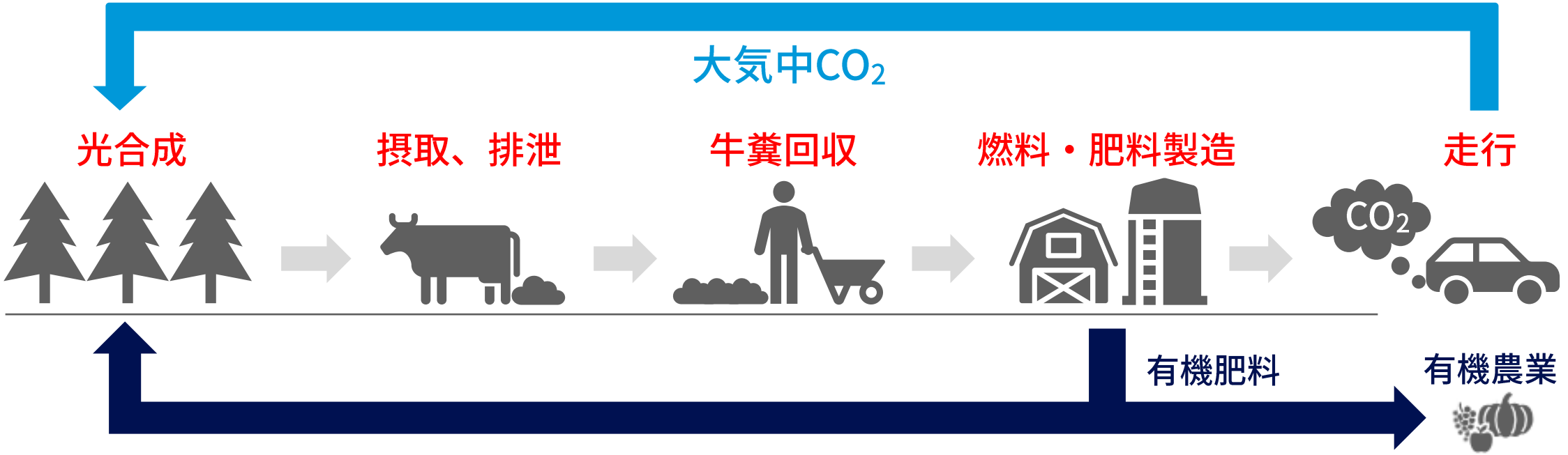
販売台数を増やしながら、CO_2排出量の削減へ“挑戦“

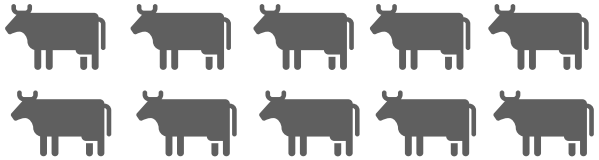


牛糞を原料とするバイオガス燃料の製造･供給事業へ

© Suzuki Motor Corporation, 2023. All rights reserved.

インドに合ったカーボンニュートラルを目指すソリューション





10頭の1日の牛糞 ≒ 1台の1日の燃料

© Suzuki Motor Corporation, 2023. All rights reserved.

カーボンニュートラル｜バイオガス実証事業の歩み

2022年8月	インド政府関係機関の全国酪農開発機構(※)と覚書を締結
2022年10月	合同会社富士山朝霧Biomassへ出資

（※）National Dairy Development Board

インド事業40周年記念式典（インド）

Press Information Bureau Government of India提供

インド政府関係機関と覚書を締結(インド)

合同会社富士山朝霧Biomass（日本）

© Suzuki Motor Corporation, 2023. All rights reserved.

2022年12月　アジア最大規模の乳業メーカーを含めた3者での覚書を締結

全国酪農開発機構 ＋ スズキ ＋ Banas Dairy社

→ 実証事業の計画(案)

場所 ： インドグジャラート州バナスカンタ地域

規模 ： バイオガス生産量 約1,500kg/日

≒約500台のCNG車が1日に走行する燃料に相当

日程 ： 24年半ば稼働開始

3者での覚書締結（インド）

© Suzuki Motor Corporation, 2023. All rights reserved.

カーボンニュートラル

循環型社会の実現

経済成長

カーボンニュートラルな燃料の普及

メタンの大気放出抑制

有機肥料の促進

農村地域の収入源の創出

エネルギー自給率の向上

新たな雇用の創出

低価格なモビリティの普及

全世界のステークホルダーへ貢献

© Suzuki Motor Corporation, 2023. All rights reserved.

３．リソース

© Suzuki Motor Corporation, 2023. All rights reserved.

リソース｜商品・技術開発の方向性

新興国の
経済発展に貢献

環境に貢献する
コンパクトな製品

経済性、品質に優れた
製品･サービス

スズキの強みを組み合わせた
人々の移動と生活を支える
スズキ独自の価値

ワクワクする
モノづくり

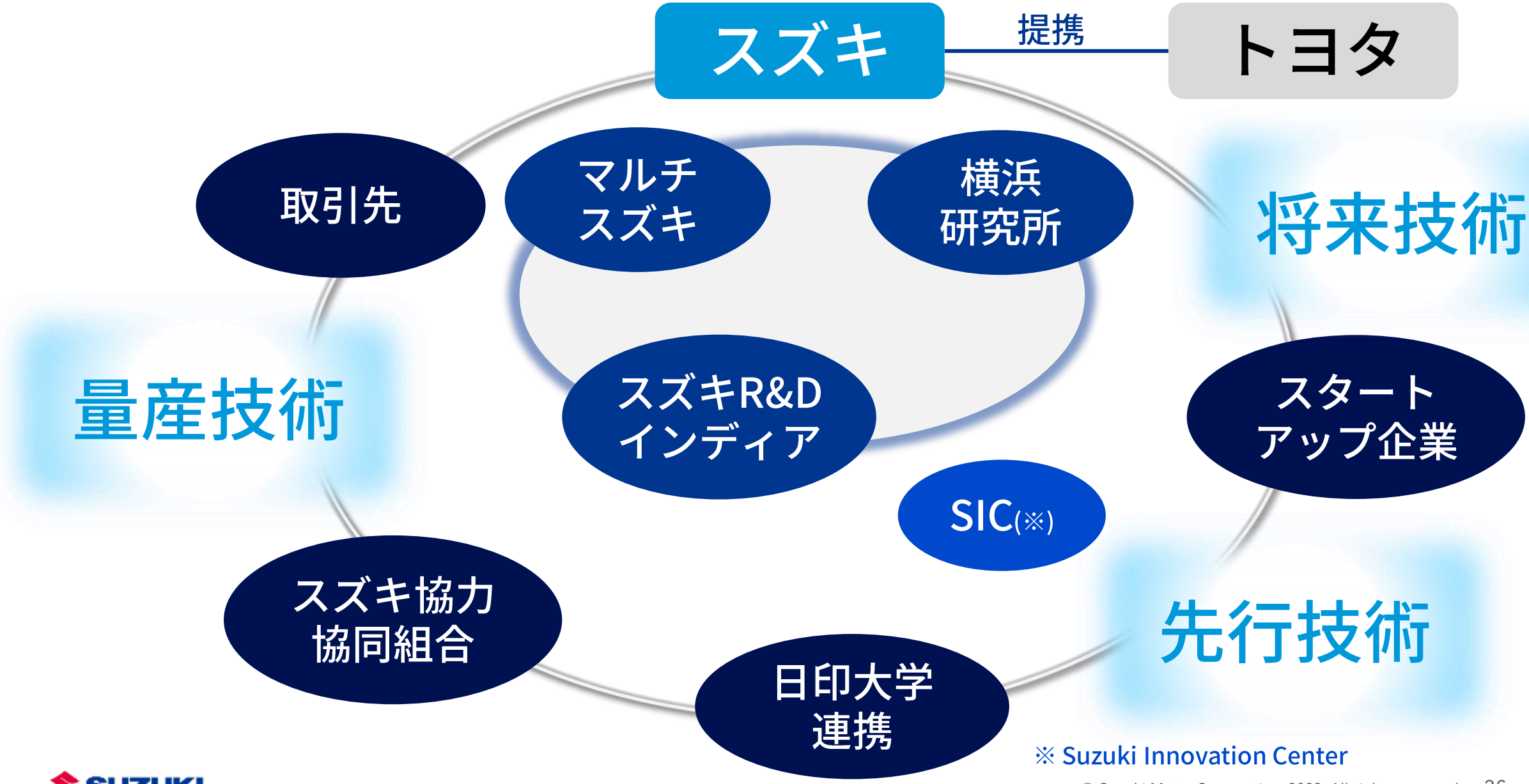
必要不可欠な
地域の足･生活の足

© Suzuki Motor Corporation, 2023. All rights reserved.

リソース｜商品・技術開発の方向性

© Suzuki Motor Corporation, 2023. All rights reserved.

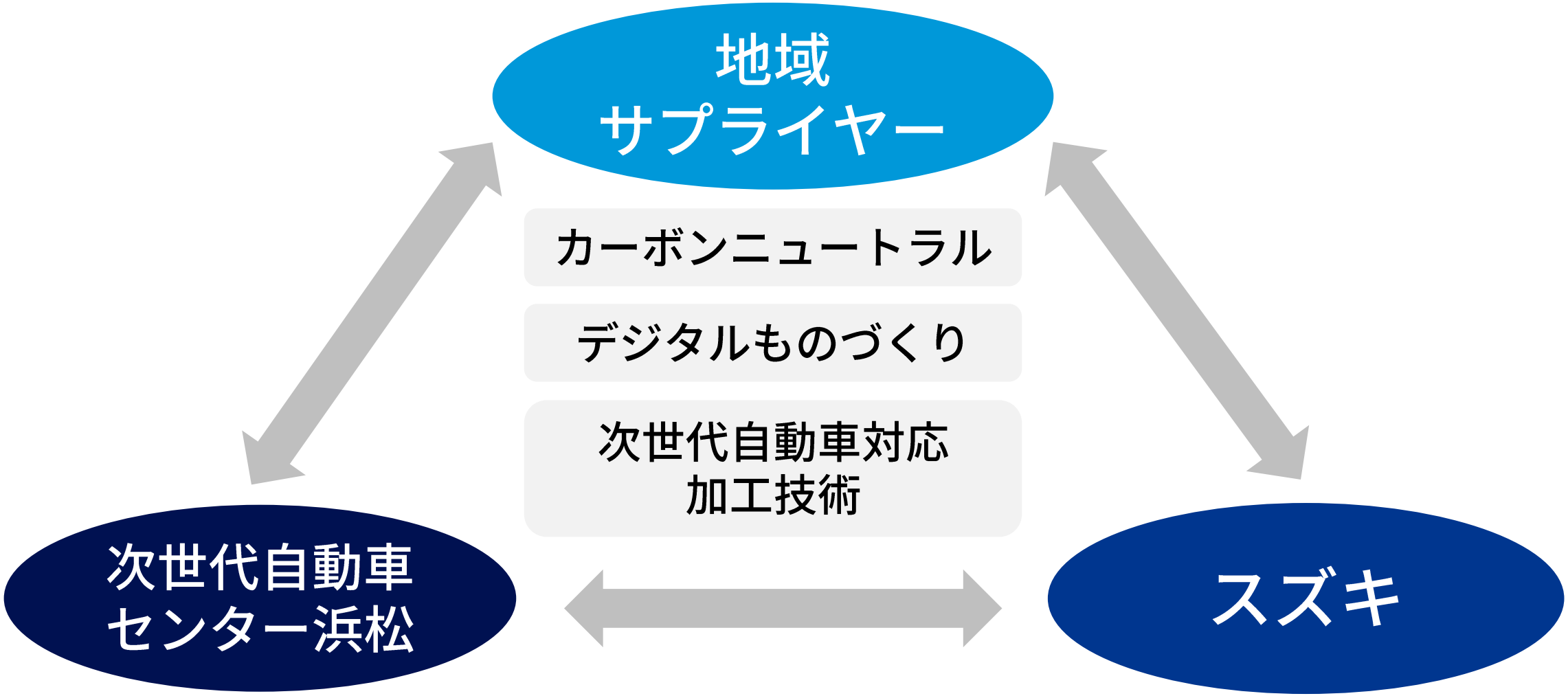
リソース｜研究開発体制・外部連携



※ Suzuki Innovation Center

© Suzuki Motor Corporation, 2023. All rights reserved.

地域産業力の強化



© Suzuki Motor Corporation, 2023. All rights reserved.

燃料をつくるプロセスでの効率化を研究

- ENEOS
- スズキ
- SUBARU
- ダイハツ
- トヨタ
- 豊田通商

エタノールの効率的な生産システム

副生酸素とCO_2の回収・活用

システム全体の効率的な運用

効率的な原材料作物栽培方法

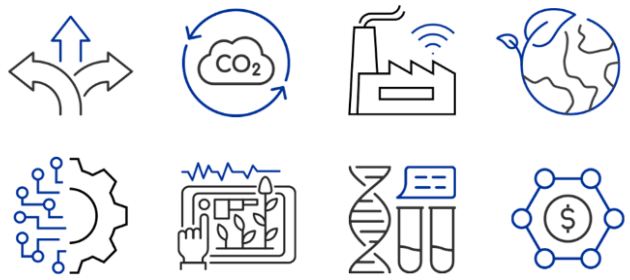
© Suzuki Motor Corporation, 2023. All rights reserved.

「競争と協力」持続的成長と様々な課題克服

先進技術での協業	• 自動運転および先進安全技術 • 電動車用の車載電池
新興国のビジネス拡大	• インドを軸に電動車の相互供給 • アフリカでの市場開拓の推進
インドのカーボンニュートラルおよび循環型社会形成	• バイオ燃料普及の推進 • リサイクルへの取組み

© Suzuki Motor Corporation, 2023. All rights reserved.

リソース｜スタートアップ企業との共創



SKYDRIVE

Applied EV

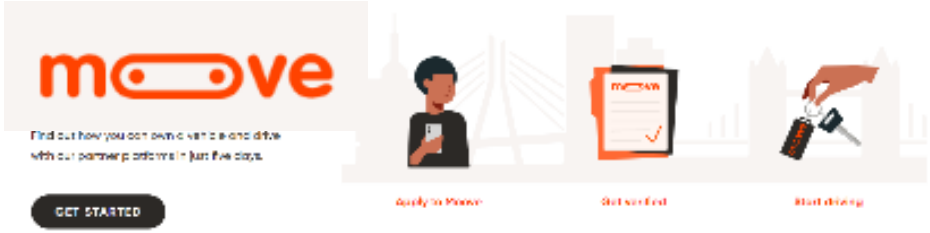
m2Labo. AGRINNOVATION

Suzuki Global Ventures

HAKUTO-R

Power X

moove



© Suzuki Motor Corporation, 2023. All rights reserved.

2023年度～2030年度の資源投入

研究開発費

２兆円

カーボンニュートラル・ソフトウェア

- 電動化、牛糞バイオガス事業
- 自動運転、先進安全技術

設備投資

２.５兆円

→ ４.５兆円

（内、電動化関連投資 ２兆円
（含む電池関連投資0.5兆円））

© Suzuki Motor Corporation, 2023. All rights reserved.

４．成長目標

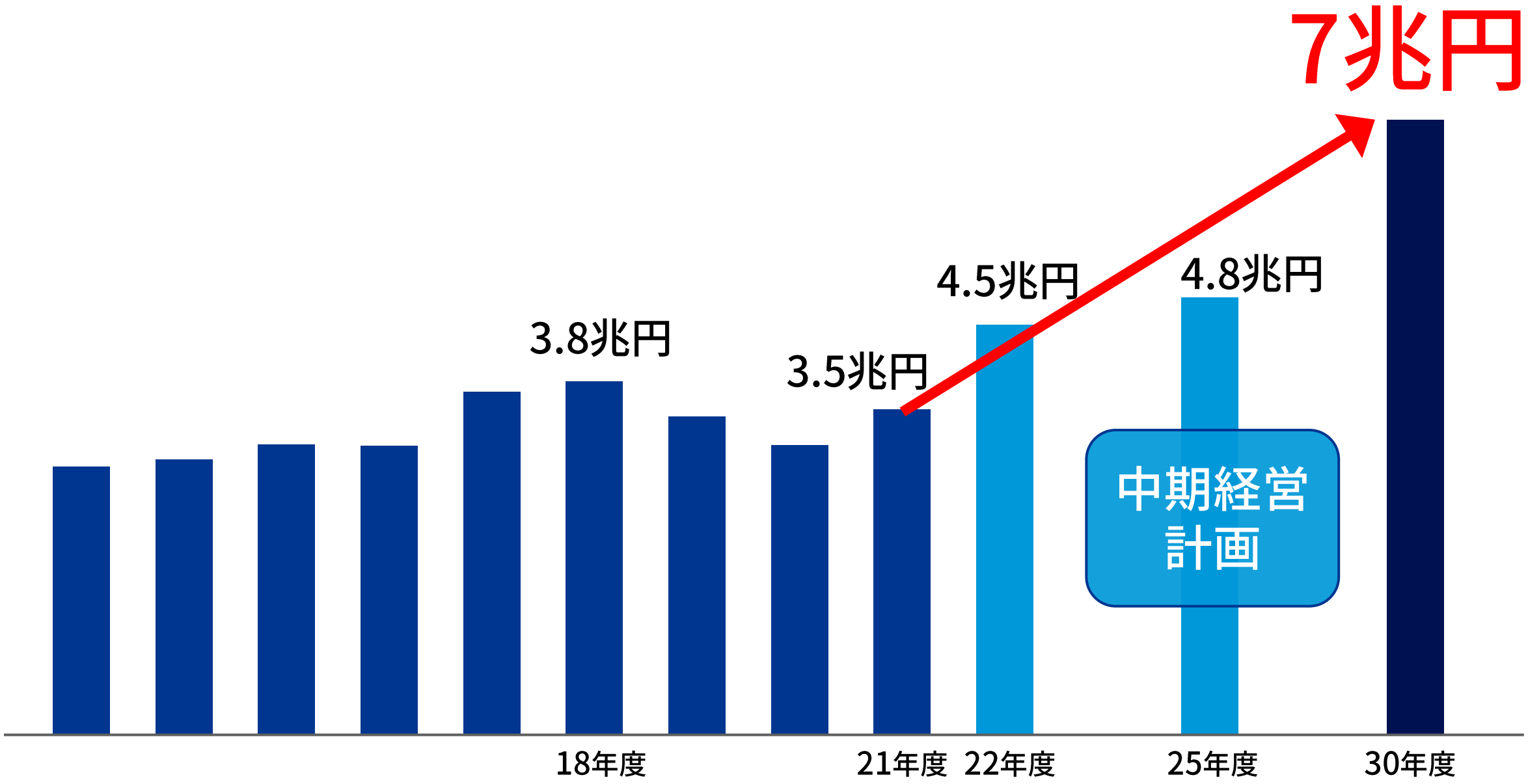
© Suzuki Motor Corporation, 2023. All rights reserved.

人と社会に必要とされる会社であり続ける

構造改革	リスク極小化	将来に向けた種まき
企業風土改革	半導体・部品不足	カーボンニュートラル
人材育成	原材料価格の高騰	CASE
DX推進	品質確保	将来・先行技術
	法令遵守	アライアンス

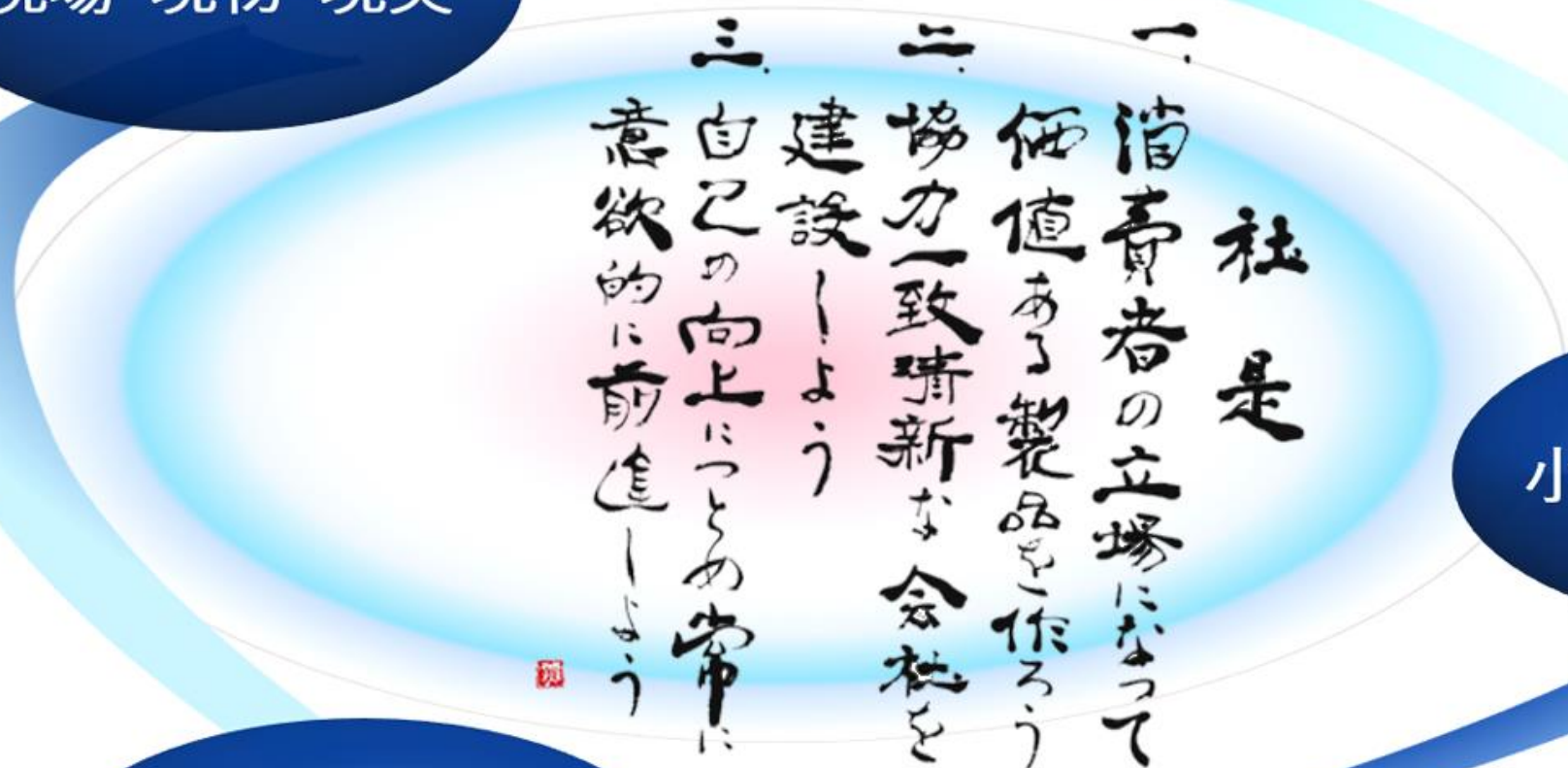
© Suzuki Motor Corporation, 2023. All rights reserved.

成長目標｜連結売上高



© Suzuki Motor Corporation, 2023. All rights reserved.

現場・現物・現実



小・少・軽・短・美

中小企業型経営

行動理念

© Suzuki Motor Corporation, 2023. All rights reserved.

生活の“パートナー”

© Suzuki Motor Corporation, 2023. All rights reserved.

SUZUKI